

荒廢田十三町 東北十五條田既荒者

以前溝障不溉。依茲件田既荒廢。仍具注狀申送。謹解。

天平神護二年十月七日

庄司 僧 慚 敬

僧 行 珣

延曆十一年 壬申 紀元一四五二

六月十四日。太政官符を下して、邊要の地以外の兵士を停廢し、能登國等に健兒を置く。

【類聚三代格】

六

太政官符

應差健兒事

大和國卅人○河内以下 能登國五十人○越中以下

(藤原藤原)以前被<sub>レ</sub>右大臣宣稱。奉勅。今諸國兵士、除邊要之地之外、皆從停廢。其兵庫鈴藏及國府等類、宜差健兒以充守衛。宜簡差郡司子弟作番令守。

延曆十一年六月十四日

弘仁十四年 癸卯 紀元一四八三

二月三日。太政官、越前江沼・加賀二郡を割きて加賀國を置かんことを論奏す。

【類聚三代格】

七

太政官謹奏

割越前國江沼加賀二郡爲加賀國事准中國

守 一人 掾 一人 大目 一人

少目 一人 史生 三人 博士 二人

醫師 一人

右得彼國守從四位下紀朝臣末成等解稱。加賀郡遠去國府、往還不便、雪零風起、難苦殊甚。加以途路之中有四大川、每遇洪水、經日難涉、人馬阻絕、動致壅滯。又郡司鄉長、任意侵漁、民懷冤屈、路遠無訴、不堪深酷。逃散者衆、又部内潤遠、多煩巡檢、官舍之損、農桑之怠、莫不由此。伏請、別立件國、名曰加賀國者、夫調琴瑟者、終待弛張之功、行政化者、必資權變之道。彼越前國、民俗

凋弊、非恩何息。境内潤遠、本稱難治。臣等商量、所申合宜。伏聽天裁、謹以申聞謹奏。

弘仁十四年二月三日

聞。

(分國のこのこと確定せるは三月朔日にあること、日本後紀に「弘仁十四年二月依官奏。同年三月丙辰朔割越前江沼加賀二郡爲加賀國」といひ、又別記天長二年正月十日の太政官符によりて知るべし。)

五月三日。太政官符を下して、加賀國が正税を以て破損の官舎を修理せんとの請を允す。

【類聚三代格】

八

太政官符

正税稻四萬束

越前國二萬束

加賀國二萬束

右得兩國解稱。支度修理破損官舎新物、既超十萬束。依格前司輸新後司可修。而會去年十一月廿四日恩詔

天長二年

悉從免除。望請、前件正税宜宛修造、其用帳者副作物帳言上。謹請官裁者。右大臣宣。奉勅。宜依請。但其代出舉正税令填。又自茲以後、若有申請修理新稻者、亦宜准此出舉令填。

弘仁十四年五月三日

天長二年 乙巳 紀元一四八五

正月十日。太政官符を下して、中國たる加賀を改めて上國に列せしむ。

【類聚三代格】

九

太政官符

加賀國定上國事

右太政官去弘仁十四年三月一日下式部省符稱。依太政官去二月三日論奏。割越前國江沼加賀二郡爲加賀國、又定中國者。今件國准諸上國、課丁田疇其數差益。被右大臣宣稱。奉勅。宜改爲上國。

天長二年正月十日